# 年次研修者振返り

１年次　英語科　梁島　理雄

本校は、「読解力の育成」と「アウトプット（話す・書く・行動する)」という取組目標のもと、「(定義の理解など）教科書を読んで理解できる力・表現できる力」を育成することが示された。その中で、１年次では以下の２点に重点を置き授業を行った。

１点目は、一人１台端末を効果的に活用して、英語の学習意欲や自己肯定感を高めるアウトプットの機会を設けることである。１年次では、Microsoft OneNote を使って、共同作業によるグループワークや kahoot!というゲーム型学習用ウェブサイトを活用した。

kahoot!については、１年間を通して語彙のクイズや文脈にあった適切な単語を選択する問題、並び替え問題などを繰り返し出題することで、動詞の時制や文型など読解力の基盤となる語彙や文法の確かな定着を図った。また、Microsoft OneNote を使った学習では、本文の要点や意味をグループで話し合い、それを発表するアウトプット活動を行った。各グループで役割を決め、自分の意見を述べることによって他者に認められる実感を得ることが意欲的な学習につながり、かつ他者の意見から理解を深める他者参照の学びにもつながったと考える。

２点目は、「読解力の育成」という目標を踏まえ、「(定義の理解など）教科書を読んで理解できる力・表現できる力」の育成を図ることである。本校の生徒の傾向として、英語の読解力の基盤となる語彙力や文法の理解度に課題が見られ、英語に対する苦手意識を持っている生徒も多い。その中で、教科書本文の内容は、一人１台端末から Microsoft Whiteboard と Microsoft OneNote を中心に活用し、授業の中で対話的に学びを深める機会を多く設けた。特に、Microsoft Whiteboard を使い、リアルタイムでの英作文のアウトプット活動やペアワークでの Q&A アクティビティ、穴あきリーディング、本文の「教え合い」活動などのアウトプットを通して、生徒同士で考えを深め、表現することができるようファシリテートした。

しかしながら、上記のグループワークやペアワークでは、取り組む生徒に偏りが見られたり、各ペアの基礎学力や表現力によって学習の成果が大きく異なったりすることから、一人ひとりの理解度を把握できなかった。そのため、これらの活動に依存しすぎず、机間指導の中で個別に課題を設定し、一人ひとりの理解度を確認する場面を設けていくことが課題として挙げられる。

１年次研修では、様々な指導法や ICT ツールを試行錯誤することで、大きな成果と課題を得ることができた。特に、Microsoft Whiteboard を使った生徒中心のアウトプット学習は、学びの多様性に応じた個別最適な学びと協働的な学びにつながり、今後の学習指導の基盤になると考える。しかし、２年次でも英語の指導法に関する研究を続け、今年度得た成果を指導の基盤としつつ、生徒が自律的に学ぶスタイルの授業を前提とした「(定義の理解など）教科書を読んで理解できる力・表現できる力」の育成に多角的な視点で励んでいきたい。